**U.human API v1 ドキュメント**

**はじめに：人間のように対話するAIを、あなたのサービスに**

**U.human API**へようこそ。

U.humanは、単なる自動応答システムではありません。顧客一人ひとりの感情や文脈を深く理解し、人間らしい共感を持って対話する、次世代の顧客対応AIサービスです。このAPIを利用することで、あなたのWebサイト、アプリケーション、社内システムに、U.humanの高度な対話能力をシームレスに組み込むことができます。

このドキュメントは、U.human APIの全ての機能と可能性を解き放つための、開発者向けガイドです。認証から始め、基本的な対話セッションの管理、そしてWebhooksやナレッジベース連携といった高度な機能まで、サンプルコードを交えながら詳細に解説します。

**第1章：利用開始ガイド**

**1.1 APIキーの取得**

U.human APIを利用するには、まずAPIキーが必要です。以下の手順で取得してください。

1. GrowthTech社の開発者ポータルにログインします。
2. ダッシュボードから [プロジェクト設定] > [APIキー] を選択します。
3. [新しいキーを生成] ボタンをクリックします。生成されたAPIキーは、後で利用するために安全な場所に保管してください。このキーは、あなたのアカウントを認証するための重要な情報です。

**【重要】** APIキーはパスワードと同様に扱ってください。クライアントサイドのJavaScriptコードに直接埋め込むなど、外部に漏洩する可能性のある方法での使用は避けてください。

**1.2 認証**

APIへのリクエストは、HTTPヘッダーにAPIキーを含めることで認証されます。

Authorization: Bearer YOUR\_API\_KEY

# Pythonでのリクエストヘッダー例

import requests

headers = {

"Authorization": "Bearer sk-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx",

"Content-Type": "application/json"

}

response = requests.post(url, headers=headers, json=payload)

認証に失敗した場合、APIはステータスコード 401 Unauthorized を返します。

**1.3 エンドポイントURL**

U.human APIのベースURLは以下の通りです。

https://api.growthtech.example.com/v1

**第2章：コアコンセプト**

APIを効果的に利用するために、U.humanが対話を管理するための主要な概念を理解しましょう。

* **セッション (Session)**: ユーザーとAIとの一連の対話全体を指します。各セッションは一意のsession\_idによって識別され、このIDを通じて過去の会話履歴や文脈が維持されます。
* **メッセージ (Message)**: ユーザーまたはAIによる個々の発言です。
* **インテント (Intent)**: ユーザーの発言が持つ「意図」です。例えば、「料金を知りたい」「製品Aの使い方を教えて」などがインテントにあたります。U.humanはこれを自動で推定します。
* **エンティティ (Entity)**: 発言に含まれる具体的な情報（固有名詞など）です。「製品A」や「東京」などがエンティティにあたります。
* **コンテキスト (Context)**: 会話の文脈情報です。過去のやり取りで明らかになった情報（顧客ID、問い合わせ中の製品名など）がここに保存され、AIの応答生成に利用されます。

**第3章：APIリファレンス**

**3.1 セッション管理**

**POST /sessions**

新しい対話セッションを開始します。

リクエストボディ (任意)

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| user\_id | string | あなたのシステムにおけるユニークなユーザーID。分析やユーザーごとの文脈管理に役立ちます。 |

| initial\_context | object | セッション開始時にAIに与えたい初期文脈情報。キーと値のペアで指定します。 |

**リクエスト例**

{

"user\_id": "customer-12345",

"initial\_context": {

"plan": "premium",

"last\_login": "2025-08-17T14:30:00Z"

}

}

**レスポンス (201 Created)**

{

"session\_id": "sess\_abc123xyz789",

"created\_at": "2025-08-18T11:00:00Z",

"expires\_at": "2025-08-18T12:00:00Z"

}

**3.2 メッセージ送信**

**POST /sessions/{session\_id}/message**

指定されたセッションで、ユーザーからのメッセージを送信し、AIからの応答を取得します。これがAPIの最も中心的な機能です。

パスパラメータ

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| session\_id | string | 対象のセッションID。 |

リクエストボディ

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| text | string | ユーザーが入力したメッセージ本文。 |

| override\_context | object | (任意) このリクエストでのみ、一時的に上書きする文脈情報。 |

**リクエスト例**

{

"text": "Connect APIのレート制限について教えてください。"

}

**レスポンス (200 OK)**

{

"response": {

"text": "Connect APIのレート制限ですね。ご利用のプランによって異なりますが、Standardプランでは1分あたり60リクエストが上限となっております。詳細はAPIドキュメントの「レート制限」の項をご確認ください。",

"intent": "inquiry.api.rate\_limit",

"entities": [

{

"type": "product\_name",

"value": "Connect API"

}

]

},

"updated\_context": {

"plan": "premium",

"last\_login": "2025-08-17T14:30:00Z",

"last\_inquiry\_product": "Connect API"

},

"usage": {

"prompt\_tokens": 150,

"completion\_tokens": 85,

"total\_tokens": 235

}

}

**3.3 会話履歴の取得**

**GET /sessions/{session\_id}/history**

指定されたセッションの全会話履歴を取得します。

パスパラメータ

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| session\_id | string | 対象のセッションID。 |

クエリパラメータ (任意)

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| limit | integer | 取得するメッセージの上限数。デフォルトは20。 |

**レスポンス (200 OK)**

{

"session\_id": "sess\_abc123xyz789",

"messages": [

{

"role": "user",

"text": "Connect APIのレート制限について教えてください。",

"timestamp": "2025-08-18T11:05:10Z"

},

{

"role": "assistant",

"text": "Connect APIのレート制限ですね。ご利用のプランによって異なりますが...",

"timestamp": "2025-08-18T11:05:12Z"

}

// ... more messages

]

}

**第4章：高度な機能**

**4.1 Webhooksによるリアルタイム通知**

特定のイベントが発生した際に、U.humanからあなたのサーバーへHTTP POSTリクエストを送信させることができます。これにより、プロアクティブなアクションが可能になります。

**設定方法**: 開発者ポータルの [プロジェクト設定] > [Webhooks] から、エンドポイントURLと購読したいイベントタイプを設定します。

**イベントタイプ**

* session.created: 新しいセッションが開始された時。
* human.handover.required: AIが人間のオペレーターへの交代が必要だと判断した時。
* session.closed: セッションがタイムアウトまたは明示的に閉じられた時。

**ペイロード例 (human.handover.required)**

{

"event\_type": "human.handover.required",

"session\_id": "sess\_abc123xyz789",

"reason": "customer\_frustration\_detected",

"timestamp": "2025-08-18T11:20:45Z",

"latest\_messages": [

// ... 直近の会話履歴

]

}

**4.2 ナレッジベース連携**

U.humanは、あなたが提供するドキュメント（ナレッジベース）を学習し、回答の根拠とすることができます。ナレッジベースはAPI経由で動的に管理できます。

**POST /knowledge/documents**

新しいドキュメントをナレッジベースにアップロードします。

リクエストボディ

| パラメータ | 型 | 説明 |

| :--- | :--- | :--- |

| title | string | ドキュメントのタイトル。 |

| content | string | ドキュメントの本文。Markdown形式を推奨。 |

| product\_tag | string | (任意) このドキュメントが関連する製品タグ。（例: microchaos, u.human\_api） |

**第5章：レート制限とエラーハンドリング**

**5.1 レート制限**

APIへの過剰なリクエストを防ぐため、プランに応じたレート制限が適用されます。制限を超えた場合、HTTPヘッダーと共にステータスコード 429 Too Many Requests が返されます。

|  |  |
| --- | --- |
| **プラン** | **リクエスト/分** |
| Free | 20 |
| Standard | 60 |
| Enterprise | 300 |

**5.2 主なHTTPステータスコード**

|  |  |
| --- | --- |
| **コード** | **意味** |
| 200 OK | リクエスト成功。 |
| 201 Created | リソースの作成に成功。 |
| 400 Bad Request | リクエストの形式が不正です。（パラメータ不足など） |
| 401 Unauthorized | APIキーが無効または未指定です。 |
| 404 Not Found | 指定されたリソース（セッションIDなど）が見つかりません。 |
| 429 Too Many Requests | レート制限を超えました。 |
| 500 Internal Server Error | U.human側で予期せぬエラーが発生しました。 |

このドキュメントが、あなたのサービスと顧客との間に、より人間らしい繋がりを築くための一助となれば幸いです。

GrowthTech社 テクニカルサポート

連絡先: apisupport@growthtech.example.com